

地中海紀行(7) 南地中海を航海してジブラルタルに寄港

2023-7-4 池田良穂

イタリアのナポリを出港して、「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は南地中海を西に針路を向けました。最後の寄港地ジブラルタルに寄港するまでに 2 日間の終日航海があるため、船上はいつも以上にまったり感が溢れています。レストランで朝食をとる人も、早朝は少なく、昼前になってようやく混みだします。ひながサンデッキのデッキチェアは日光浴をする人で一杯です。日光浴をしながら読書をしている人もいます。

終日航海日の初日の昼頃に、「アンセム」は突然針路を北に変えて 20 ノットに増速しました。続いて船長のアナウンスがあり、乗客に病人がでたのでサルジニア島の南部の港に緊急寄港して、陸上の病院に搬送することになったとのこと。港の沖合まで小型ボートが来て、病人の搬送をしました。それまでは 15 ノット程度で走っていましたが、その後、その遅れを取り戻すため 19 ノットくらいまでスピードを上げました。

翌終日航海日の 2 日目の昼頃に、ジブラルタル海峡に繋がる狭い海域に入り始め、時々、船の姿が見えるようになりました。タンカーとの出会いが多く、石油がエネルギー資源および化学製品の原料として重要であることは欧州においても変わらないようです。天気は快晴で、海上も穏やかな中を 15 ノットで航行しており、コンテナ船が追い抜いていきました。

昼食は、ウィンドジャマー後部でのデッキランチとしました。

14 時からシアターで、2 時間のミュージカル「We Will Rock You」を、今クルーズで 2 回目の観劇としましたが、なかなか迫力のある舞台でした。1 回目の時にはなかなかストーリーが掴めなかったのですが、2 回目を見てほしい理解ができました。これだけ大掛かりな舞台をできるのは大型船ならではの。昼間の公演ながら席はほぼ満席でした。サンデッキも人で一杯でデッキチェアがほとんど空いていない状態でしたから、人がうまく分散されているようです。

4 日目の朝、欧州大陸の西端近くにまで来たので、日の出は 7 時 9 分とかなり遅い朝となりました。まだ日が出る前に「アンセム」はジブラルタル港に到着しました。イベリア半島の西南端の小さな半島にあるジブラルタルは今でも英国の植民地で、スペインからは常に返還を求められていますが英国は応じていません。地中海への出入口であり、地政学的な意味をもつ要衝なのだからなのでしょう。アフリカ大陸へもジブラルタル海峡をはさんで、最も狭いところでは、わずか 14km の距離にあります。

事前にジブラルタルからアフリカへのフェリー便を調べてみましたが、週に数便だけのよう。ところが、ジブラルタルに到着した船の上から見ると、1 時間に何隻ものカーフェリーや高速カーフェリーが、対岸の港から出入りしているのが見えました。対岸に見えるのはスペインのアルヘシラスの港で、地の利を生かしてスペインでも有数の港となっており、1 万 TEU を超える大型コンテナ船

もたくさん出入りしていました。アルヘシラス港に出入港するフェリーは、400mmの望遠レンズでとらえるとファインダー一杯に映るくらいの距離を通過していきます。10時過ぎまでは順光でしたので、船の上からシップウォッチングを楽しみました。

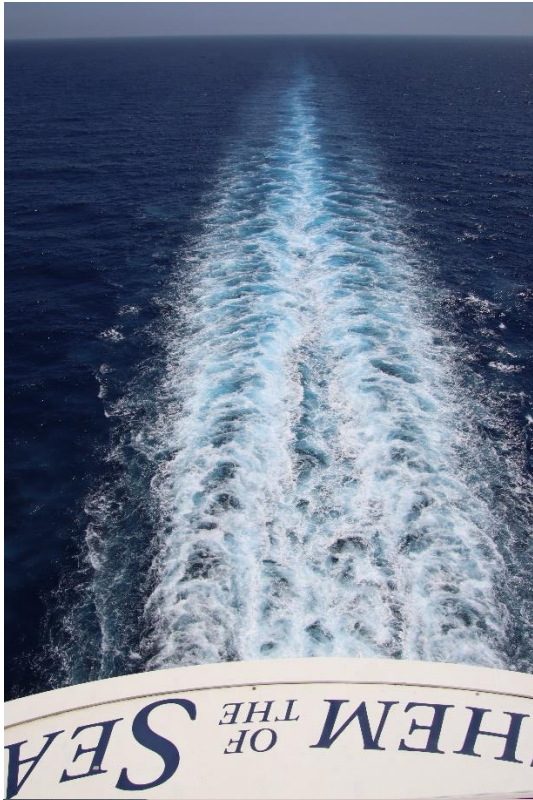
その後上陸して、まずは、有名な空港の滑走路を横断する道路を見に行きました。この道路は、スペインとの国境のゲートにもつながっています。ちょうど信号が赤になって、飛行機が着陸するところを見ることができました。

その後、ロックに登るロープウェイを目指しましたが、意外に距離があり、船に帰るのが14時半の乗船リミットに間に合わない可能性もあったので、街中の城壁の一面にあったレストランで昼食をとり、繁華街をぶらぶらしてから船に戻りました。クルーズターミナルは古い上屋を改装して、さらに増築したもののようで、中にはお土産屋さんや免税の酒屋などが入っていました。

15時すこし前に離岸して港を出て、西に向かう船の航路に入りました。やがて左舷側にはアフリカ大陸の山が見えて、スペインとモロッコを結ぶフェリー等とも交差しながら「アンセム」は大西洋に漕ぎ出しました。



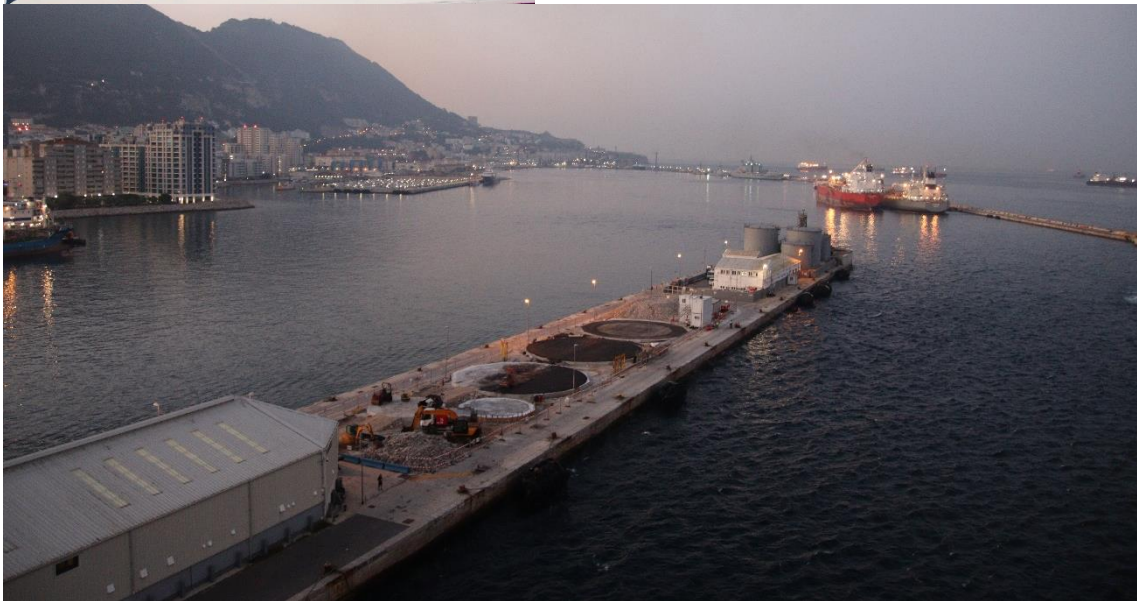
ナポリをでて、サルジニア島の南に差し掛かる頃、病人がでたため、サルジニア南端の港に20.4ノットに増速して急行しました。



その後は平穏な航海が続きました。



15 ノットで航海する「アンセム・オブ・ザ・シーズ」をCMA-CGMのコンテナ船が追い越していきました。



ナポリをでてから4日目の朝にジブラルタルに入りました。クルーズ岸壁は、まだ整備中のように、石油タンクの跡らしきものが並んでいました。手前に見える建物がクールズターミナルの端です。



ジブラルタルのクルーズターミナルに停泊する「アンセム・オブ・ザ・シーズ」です。ターミナルの建物は、古い上屋の壁をそのまま使い、屋根だけ張り替えたもののように、それに増築をしています。

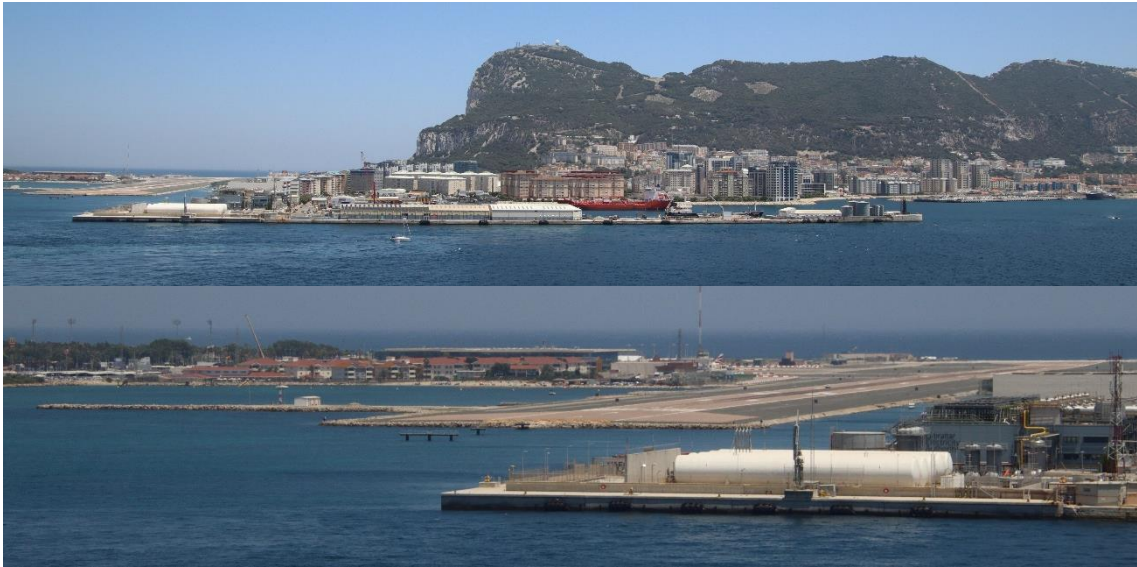
以下は、船上から撮影したスペインのアルヘシラスとアフリカのモロッコを、ジブラルタル海峡を横断して結ぶフェリー一群です。かなりの高頻度での運航をされており、ジブラルタル港が欧州大陸側のフェリー基地と思っていた筆者の大間違いでした。ドーバー海峡横断航路では、トンネルとの競合でフェリーの大型化が進んでいますが、ジブラルタル海峡横断航路では、小型フェリーから超高速カーフェリーまで様々なタイプの船が就航していました。船上から 400mm の望遠レンズで撮影したため船名がはっきりせず、さらにスペイン船はくずした文字が多いため船名確認は難しく、帰国してから ShipPax の船名年鑑 Guide と照らし合わせて船名を判別しようと思っています。したがって、下記写真は船名なしで掲載します。







ジブラルタルには飛行場の滑走路を横断する道路があり、飛行機が離着陸するときに遮断機が下ります。ちょうど飛行機が降りてきたところに遭遇しました。



ジブラルタル港を出港する船の上からジブラルタルの空港を望みました。飛行場より右側が英国領ジブラルタルです。スペイン系住民が半数以上で、レストランでは全く英語が通じませんでした。看板などはほとんどが英語なのですが。



沖合から見たジブラルタルの岩山(The Rock)です。





ジブラルタル港出港後に、ジブラルタル海峡を航行中に出会った船です。大型カーフェリー、高速カーフェリー、そして風力発電装置のブレードを運ぶ貨物船です。